

< 参考 >

項目	影響	対策	
		制限を設けない常時開門 (高潮時を除く)	短期開門調査と同様の開門条件の場合
海域・調整池の環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ○洗掘された堆積物により海域環境に悪影響を与える ○水棲生物が環境に適応できずに斃死する事による調整池や海域環境への悪影響を与える 	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池内の浮泥除去が必要となるが、全年度流入することが想定されるため対策から除 ・海水導入によって洗掘が発生する恐れのある部分の底泥を浚渫した上で捨石工(14万m³)を実施するとともに、既設護床工(4.2万m²)の補強を行う ・海水導入前に調整池内の淡水性生物の保護・放流、淡水性生物の放流(参考)短期開門調査結果では、淡水魚の採捕生物の斃死(魚類8.8t(約2万尾)貝類0.8t(約2千尾)) ・工期 3年程度 ・費用 423億円程度 (内訳 捨石工(底泥浚渫含む):405億円、護床工:18億円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・速い流れを生じない開門方法のため、必要なし ・同左 ・補放流(0.55t(1265尾))、水約1万個) ・工期 3年程度 ・費用 423億円程度 (内訳 捨石工(底泥浚渫含む):405億円、護床工:18億円、生物保護:1億円)
防災機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○調整池の塩水化や水位上昇に伴い背後地の防災機能に悪影響が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・調整池の水位上昇に対応する常時と洪水排水と運転(14施設、必要排水量 155m³/s) ・降雨時の排水機能の確保と塩水の浸入防止(既設14樋門の主ゲート、フラップゲート等を補修) ・クラック等が生じている102ヶ所の既設堤防の補修 ・これら以外に上述した浮泥除去とともに、底泥の堆積による河口・樋門閉塞防止対策が必要 ・工期 3年程度 ・費用 202億円程度 (内訳 ポンプ(常時・洪水):200億円、樋門補修:2億円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時排水のため、排水ポンプの設置と運転(14施設、必要排水量 11m³/s) ・降雨時の排水機能の確保と塩水の浸入防止のため、既設樋門を補修(既設14樋門の主ゲート、フラップゲート等を本格的に補修) ・クラック等が生じている78ヶ所の既設堤防の補修 ・同左 ・工期 数ヶ月 ・費用 13億円程度 (内訳 仮設ポンプ:11億円、樋門補修:2億円、堤防補修0.1億円)
施設の安全性確保	<ul style="list-style-type: none"> ○流速が大きくなること等により潮受堤防の安全性が損なわれる ○施設構造が海水導入を想定していないため排水門ゲートの安全性が損なわれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗掘対策に含まれる既設護床工の補強が施す必要 ・ゲートを全開とするため流速に影響されない 	<ul style="list-style-type: none"> ・速い流れを生じない開門方法のため、必要なし ・ゲートの構造が、海水導入による流れを想定したものとなっていないため、改造が必要(なお、調査方法・期間によってはゲート構造の変更が不要になる可能性がある) ・期間 2年程度 ・費用 50億円程度 (内訳 ゲート改修:50億円)
周辺の農業・漁業への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○農地に必要な水源がなくなる ○潮風害及び流速が大きくなることによる農業・漁業活動への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・干拓地や背後地に必要な水源の確保が必要となるような適地がみあたらない ・塩分飛散による潮風害対策として、既設海岸ネット(H=2m)を設置 ・漁船等の近接防止のため侵入防止ブイ等を設置 ・期間 1年程度 ・費用 6億円程度 (内訳 防風ネット:5億円、侵入防止ブイ等:0.6億円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・同左 ・速い流れを生じない開門方法のため必要なし ・期間 1年程度 ・費用 5億円程度 (内訳 防風ネット:5億円)